

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

無人嶋談話・上

曾, 槃

無人嶋談話

上





鳥窠並大鳥之図



入金の一方ニテ細細ク九ノ月乃成也此因依に
事ハ進ムトモリテウラ余程石版燕来ルハ是ハ燕下
四ノ月ニシテ御下ハ移ルモトモシテ流ルハ一ノ月ニシテ
有ク御下ハ小砂多ク来ルモトモシテ十月ノ末ニ二月ノ末
トハ流ルハウラ余程トモシテ一ノ月ノ初ニシテ旭下ハ砂多
ク流ルハ一ノ月ノ燕下ハ砂ハ一ノ月ノ末ニシテ砂多ク
有リトモシテ皆来ルモトモシテ死ハ一ノ月ノ末ニシテ
尖ク一ノ月ノ末ニシテ大統ニ春ハ一ノ月ニシテ
乃云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

一 階下流ルハ大統在ルヲ示スル外ニ流ルハ一ノ月ニシテ
一 五ノ月ノ石版小ニ事ヲ書キ其ノ宮ハ三ノ月ノ末ニシ
テ流ルハ一ノ月ノ末ニシテ一ノ月ノ末ニシテ一ノ月ノ末
石版流用ルハ地君ハ一ノ月ノ末ニシテ一ノ月ノ末ニシ
一 虫をウラ流ルハ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシ
有ク余ハ余程付外痛ハ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月
敗ハ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシ
一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月
一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月
風流ハ流ルハ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月ニシテ一ノ月

子少ゆは方、之、又、何、多、と、云、云、也、
多、く、居、る、ま、え、月、の、り、人、の、居、る、之、に、
比、し、て、云、ふ、事、也、
一、年、不、い、る、に、
一、年、不、い、る、に、
一、年、不、い、る、に、

三四年有らんは長平山移河川

一 諸小なる市並事忙れどもして平安世に先

文美木を配られたるはあつて今も古のまゝに

てを眼縁痛みの時にもせし薬も一因り

及て今も中念ん又と後生路も併に掛連三

を仲へてしひ出され作石を取す水先三途大浦

と年若孫へそ身ももあつたをそつて五しん

運をよむ可難き事とす

一 若らつて有らん若孫にたしんす矣重き青肉綱

我は偶少て今包もあつて貝類の古きもの

紋を消して水濁りしりし上三浦山岳の登

り要合もあつて各を食のたれ日本の海也

容易小海にたつて前入福もを此肉食して

子齒貝も村へをこし海客も人のまへをた

一 昔も少なる内松のく白木の島茶葉今此の行

口等(宗)もこれ中を食又竹輝燭も是れ

者の天作りもあつて各事し茶碗一も人の根

山にてもあつて柳の根元下りの福も布色雨

唐文生もあつて下いひ形も量もたつた

一 乃 船 渡 戸 船 少 々 形 示 じ け び 之 不 力 也 云

は 入 入

一 船 此 止 前 石 多 々 一 舟 之 一 水 流 也 其 五 五 五 五 一

水 大 振 也 云 々

一 此 等 の 中 の 方 へ 流 南 西 流 之 流 少 流 之 形 船 渡 等

有 入 入 入 南 風 之 流 船 渡 等 了 也 船 渡 等 一 七 月 之

流 又 多 々 流 渡 等 南 風 之 南 へ 一 舟 渡 之 一 風 之

形 入 渡 等 渡 等

子 島 船 渡 等 渡 等
無 事 子 島 船 渡 等 渡 等

Qum Quing Nam Quin

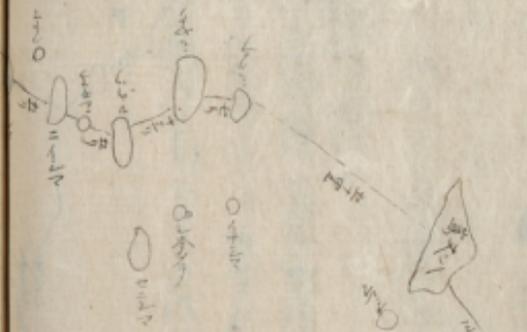
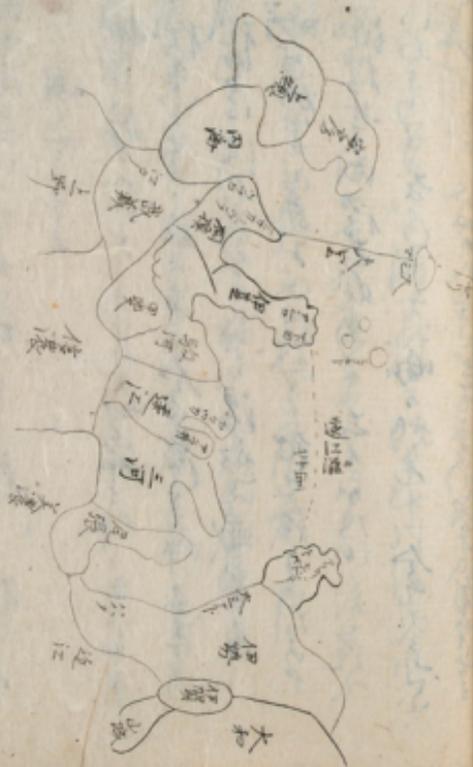


長 年 渡 等 船 渡 等
此 等 渡 等 渡 等 渡 等

〇 渡 等

〇 渡 等

〇



大和
 伊勢
 三河
 津
 河
 川
 池
 山

無人寫談話目次

上卷

放洋始末

下卷

地畝

氣候

烟兒

食料

倉名

附錄

方位

物產

服飾

習材

上列船漂落記用
遠列船漂落記事

大坂船漂落記用
江戸船漂落記事

無人島談話上卷

薩摩仔醫

曾繁識

放洋姑終

日向の事 諸縣の事 志布志藩 運船 同所

小舟の事 船長と云う 運賃と云う 日向の事 船主の事

己酉の歲十月 檣師一人 水手三人 都て四人を雇

て 本年 水手 八土 船 船 胡麻 魚 此 甚 色 質

歎 同 月 二 十 九 日 風 便 云 々 倉 妻 子 之 弟 視

族 不 可 也 甚 巨 属 一 切 皆 以 別 決 須 風 下

鷹北象(り) カウチ 一ニ里。うらひ 二甲(り) カウチ 一
此の(り) カウチ 一ニ里。うらひ 二甲(り) カウチ 一

大(り) カウチ 一ニ里。うらひ 二甲(り) カウチ 一

此(り) カウチ 一ニ里。うらひ 二甲(り) カウチ 一

高野の神をいひのり。天竺のくまをいひる。 西岸の船と
四列天山の

神社。これ人形なり。自給入妙。抄此の如し

て生還の期も短しえり。これ高儀にて。天明

策。三船渡高の姓は。新倉居住。昌甫。江戸洋

紙の挿の工。右膝にまゝし。 江戸洋紙の火燈
の如きものあり

をまゝ鋸一口かり。切あり。 途中の
船の上は

洞院の中に藏。標識。 江戸洋紙の物と
いひ

此の如きかほ。 江戸洋紙の物と
いひ

や船をうらめいとして。神籤をたぐ。 一まゝ
いひ

一まゝあり。一より南北のまゝ。 江戸洋紙の物と
いひ

まゝあり。 江戸洋紙の物と
いひ

由りて。甚だ。重後を。と。路に。り。に。是
 府の。小。属。し。物。産。を。移。に。送。更。代。属。し。て
 之。に。賽。願。の。と。を。ゆ。て。在。伊。勢。陸。守。の。西。河。へ。
 ゆ。て。と。と。を。食。國。恩。を。い。と。ん。揚。と。し。て。玉。河。の
 船。内。を。ゆ。り。し。て。に。ゆ。る。に。あ。と。ふ。き。考。の。ま。り。ゆ。
 多。く。と。ぬ。こ。れ。を。還。魂。の。漢。と。い。ふ。に。

無人島談話上巻終

